

日本・若者活性化PT第1回「地方の集い」（福島県）の概要

日時：平成25年5月12日（日）10:30～13:30

場所：「コラッセふくしま」会議室（福島県福島市）

I 参加者からの活動紹介（主なもののみ・発言順）

- ・ 商工会議所 子どものためのチャリティーイベント「Run for Peace」
／小学生起業家教育／文化講演事業
- ・ 青年会議所 地域での徳育活動／ASPAC山形大会
- ・ 五十辺商工会 盆踊り・秋祭り
- ・ 国見町商工会 東北六魂祭出店
- ・ 福島ふるさと体験交流会 東京の学生団体と連携した福島体験ツアー
- ・ 伊達市商工会 小学生向けふれあい学校／夏祭り
- ・ 郷土芸能関係者 山木屋太鼓（ワシントンDC桜祭りでの国際交流）
／じゃんがら念仏踊り
- ・ 日本青年団協議会 全国青年大会／中国での植林を通じた交流活動
- ・ ビーンズふくしま ピアサポート（若者同士の支えあい）／中山間地支援ワークキャンプ（過疎地域で若年無業者が高齢農家で作業）
- ・ 三春町国際交流協会 米国ライスレイク市との派遣・受入交流事業
- ・ 船と翼の会ふくしま 国際理解教育／復興支援事業／国際支援事業

II PT委員・参加者からの主な意見

1 主に国際交流に関する意見

- 地域の活性化を行うためには地域のリーダーが必要。国際交流事業は参加した青年が「Think Globally, Act Locally」の精神を身に付ける良い機会となる。（委員）
- 国際交流活動を通じて、問題の共有など意見交換を行う中で青年リーダーを育成していくことは、復興の観点からも重要。（委員）
- 海外での伝統芸能の披露を通じて、周囲の人にどれほど支えられているかを実感するとともに、子どもたちが自信を得るという実体験から、国際交流の大きな可能性を知った。（参加者）

- 自身、あるいは自身の所属団体から青年国際交流事業（参加青年として又は地方プログラムの中で）に参加することについては前向き。（参加者全員）

2 主に若者の活性化に関する意見

- 青少年の育成を考えるにあたっては、親の存在を意識する必要。また、地域に縦串を通すという発想も重要で、高齢者と青少年の組み合わせで考えてはどうか。（委員）
- 地方の私立大学は地域に密着した存在。私大は地方の伝統・歴史・文化の継承拠点であり、新しい文化をつくる原動力となりうる。（委員）
- 各団体の活動について、同じ県内であっても把握しきれていない現状がある。連携を進めることで互いに活動を高めあうことができるのではないか。（委員）
- 被災地復興に向けた若者の役割を考えるため、同世代が集まって話し合う場を持つべき。（参加者）
- 子どもの頃から福島（地域）に関わる環境づくりを行うことで、子どもたち自身がイニシアティブを取り、夢を持って地域活動に携わるようにすべき。（参加者）
- 地域の中に、青年同士がコミュニケーションを取れる場が必要。（参加者）
- 青年活動は高齢化・少子化の影響等によって低下している一方、青年自身は地域活動への参加意欲を持っている。活動拠点の確保等によって青年活動を活性化させることができる。（参加者）

3 その他全般について

- 活動に当たっては、成果を意識し、明確な目標を目指してタイムスケジュールを立てて取り組む必要がある。（委員）
- 一過性のイベントだけでなく、日常の積み重ねという側面から、地域活性化を考えていく必要がある。（委員・参加者）